

19 消化器手術周術期における上室性頻拍に対する選択的 β_1 遮断薬の使用経験

山本 智・佐藤 好信・大矢 洋
小林 隆・小海 秀央・黒崎 功
白井 良夫・畠山 勝義

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

近年、海外を中心に、非心臓手術周術期に β 遮断薬を使用することで心血管系の合併症を減らし得ることが報告されている。本邦においても、短時間作用型 β_1 選択的遮断薬が開発され、2006 年からは術中のみならず術後も使用可能となり、種々の領域においての臨床検討が進められている。

今回、我々は当院 ICU にて消化器手術周術期に発症した上室性頻拍に対して短時間作用型 β_1 選択的遮断薬（塩酸ランジオロール）を使用した症例を経験したので、文献的考察を含めて報告する。

年齢は、29-80 歳、男性 5 例、女性 2 例であった。内訳は、生体部分肝移植 2 例、食道癌手術 2 例、腹膜炎手術 2 例、胃癌手術 1 例であった。全例において、血圧低下などの副作用を呈することなく、脈拍数を減ずることができた。また、その後心血管系の合併症は認められなかった。重度の肝機能障害を伴った肝移植症例においても、投与量を通常より減量することにより、安全にレートコントロールを行うことができた。

β 遮断薬は、外傷や熱傷におけるカテコラミンに関連したエネルギー消費増大や筋蛋白の異化亢進を抑制することも報告されている。蛋白異化が亢進する消化器手術周術期においては、このような観点からも有用であるかもしれない。

特 別 講 演

肝内結石症 — 診療のトピックス —

杏林大学医学部外科学 教授

跡 見 裕

肝内結石症は減少しつつあるとされるが、果た

して実態はどうであろうか。また、肝内結石症の診療体系はほぼ完成されたものとなったのであろうか。厚生労働省の肝内結石症に関する調査研究班（跡見裕班長）では、このような問題点と、さらに結石の成因を解明するため種々の検討を行っている。全国的症例調査研究、症例対照研究、コホート研究による疫学調査から、本症の発生病因を検索し、さらに死因の中で重要な肝内胆管癌発生頻度が明らかとなった。一方画像診断の見直しを行ない、MRCP を含んだ新しい診断基準を作成した。今回の講演では、肝内結石症診療の最近の動向を解説したい。

平成 20 年度新潟精神医学会

日 時 平成 20 年 10 月 18 日（土）
午後 1 時～
会 場 ホテルイタリア軒
3F サンマルコ

一 般 演 題

1 Japanese Adult Reading Test の限界：漢字熟語音読の世代・文化的特徴について

根本麻知子・渡部雄一郎・布川 綾子
染矢 俊幸

新潟大学医歯学総合病院精神科

Japanese Adult Reading Test (JART) は、健常高齢者のデータを基に開発された知能推定のための漢字熟語音読課題である。高齢者以外での信頼性、妥当性については、健常若年成人で JART 推定 IQ（推定 IQ）と簡易 WAIS-R による IQ（IQ）との間には平均値の差を認めなかったという植月らの報告のみであり、十分な検討はなされてい